

遊休農地の発生防止と農地の集積・集約化（案）

（奈良県・御杖村農業委員会）

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他（農業
委員会の体
制強化等）

1 地区の特徴・状況、課題

- 奈良県東部、三重県との県境に位置する。内陸性気候の特徴がみられ、夏は涼しく、冬は季節風の影響で寒さが厳しい。冬季は積雪日数も多いことから、冷涼多雨地帯であるともいえる。
- 村の基幹産業は農業・林業であり、水稻や、冷涼な気候を活かした軟弱野菜(ホウレンソウ、コマツナ、ミズナ等)の栽培が盛んである。
- 経営規模の小さい兼業農家の割合が高い。

- 中山間地域に位置するため、水田の大規模な集約が困難である。
- 農業法人を含む農業従事者の高齢化・後継者不足が深刻であり、それに伴い耕作放棄地面積が増加している。近年拡大した、シカやイノシシ、サルなどによる農作物被害も、農家の耕作意欲の低下につながった可能性が高い。



2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

- 農地の遊休化を防止するため、農業委員・推進員が共済組合、役場と連携し、道路からの目視により巡回調査を実施。荒廃した農地を発見した場合は写真を撮影、地図に記録している。
- 地域おこし協力隊などの新規参入者に対して、積極的に農地の集積・集約を進めるなど、村の「農」の存続・発展のために新たな担い手の育成に努めている。



3 活動（取組と工夫）の結果

- 農業法人や認定農業者を中心に、これまでに約81.0haの農地集積が実現している。
- 農業委員が橋渡し役となり、新規参入者(認定新規就農者)に対して利用権設定による農地の貸借が実現。遊休農地の発生を未然に防止することができた。